

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

30年7月23日

三田市議会議長 今北 義明 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行	印
		議員名	佐貫尚子	
派遣者氏名	佐貫尚子			
視 察 先	山形県 : 上山市 天童市			
調査事項 (調査目的)	上山市 : かみのやま健康マイレージ事業 天童市 : 駒やかカイゼン運動事業 結婚サポーター事業			
日 時	30年7月4日(水) ~ 30年7月5日(木)			
視察先対応者	上山市役所 : 健康増進係長 尾形洋介 天童市役所 : 総務部市長公室室長補佐兼政策企画係長 武田芳仁 : 総務部市長公室室長補佐まちづくり推進担当 兼まちづくり推進係長 長澤和彦 : 総務部市長公室まちづくり推進係行政主査 栗原美幸			
添付資料	天童市 : 「駒やかカイゼン運動」について 結婚サポーターについて 上山市 : かみのやま健康マイレージ事業 : 上山市の状況 : かみのやま健康マイレージ : かみのやま健康マイレージポイントカード・			

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

平成30年7月4、5日会派視察報告書

7月4日14時45分～16時15分上山市役所にて

かみのやま健康マイレージについて

「所見」全国的に健康マイレージが導入され、三田市も30年秋から健康マイレージ制度事業開始をうけて、先進事例である山形県上山市健康推進課に伺った。

かみのやま健康マイレージの事業実施の経緯は健康推進計画である『湯ったり健康かみのやま21（第2次行動計画）が26年度から始まる事に伴い、市民の健康意識の向上と行動変容を図る事を目的にかつ楽しく健康づくりができる仕組みづくりとして考えた経緯があるとのこと。当初は検診や健康教室などにそれぞれポイントを定め、達成した方全員に市内の商業施設の商品券をお渡しする方法が考えられたが、事業調整の段階で、物で釣るような方法はダメとのことから、やり直しとなり、他の方法を検討した結果、静岡県で実施している「ポイントを貯めるとお店でサービスが受けられるカードがもらえる」という方法に変えた経緯がある。事業の内容としてはポイント加算には2コースあり、集団で行う運動や教室等健康づくりに関連することについては10ポイントを、個人で行う運動や栄養に関することで、自らが立てた健康づくり、例えば、禁煙、30分以上のウォーキングや歯磨きなど毎日コツコツコースには一日1ポイントを加算する2コースを作った。ポイントの記入は自己管理による。この2コースで30ポイントを貯めればポイントカードを健康推進課に提出し、提出をされた方については「県が発行するやまがた健康づくり応援カード」発行し、提出されたポイントカードについては年度末に公開抽選会を行う抽選権になるため健康推進課で管理をされるとのこと。ポイントカードは提出の数に制限がないため、健康づくりを多く行ってたくさん提出すれば抽選の確率が増えることになる。「やまがた健康づくり応援カード」の発行は年度中に一人一枚とし、有効期限を発行日から一年とし、健康づくりに協力する県内の店で提示するとそれぞれの店独自のサービスが受けられる。

- * ポイントのカード記入を本人に任せることについては、市民との信頼関係があり素晴らしいと感じた。特にポイントカードは紙ベースに限ると強調され、高齢者が日々の生活の中で楽しみながら取り組める方法が紙ベースだということ。また、ポイントカードの提出や、健康教室への参加が外出する機会ともなっているみらいからの質問の中に医療費の削減となっているか？の質問に対し、この事業では医療費の削減は目指していないとはっきりとお答えいただき、長い目で見てそうなっていけば良い、今は健康への関心を高める事が目的であるとのこと。ポイントカードの提出は高齢者が多いが、これからは働き世代にももっと健康に

ついて関心をもってもらいたいので、若い世代にはアプリやSNSなどで進めていくことも検討している。

健康について無関心層の方が長期入院、高額医療費を使っている現状があるので無関心層をどう感心に変えていくのかも今後の課題である。

(29年度抽選商品)は1等賞加湿器5台 2等賞カロリーカウンター10個
3等賞エクササイズマット15個、4等賞デジタルキッチングスケール25個
参加賞ハンドソープ 1から4等賞以外の方全員

(市の予算)健康グッズ51万円 ポイントカード、チラシ等10万5千印刷2万
9千通信運搬費16万4千 合計80万8千円

毎日の生活に健康への関心や継続することなど、楽しく取り組まれるようにされていることが市民にとっていい形となっている。

マイレージ導入の目的がはっきりと、明確にされているところ、三田市でもしっかりした目的を持ち取り組んでもらいたいと思う視察であった。

7月5日 9時30分～11時30分 天童市市役所にて

駒やかカイゼン運動事業について

「所見」天童市は将棋駒の生産日本一を誇る町であり、天童市市制60周年を迎えるイベ

ントとして今年10月には4000人が一堂に将棋を対局する世界記録に挑戦する大会が開催されるとのこと。町は将棋の駒を形どった様々なものがある街並みである。運動の経過については、市制60周年を迎える天童市は昭和35年から業務改善運動を実施されてきたが、近年では改善提案件数が減少傾向にあり提案が全くない年度もあった。しかしながら、行政に対する市民の評価が厳しくなっている状況においては、職員の自発的な改善取り組みが求められており、市長の公約でも市役所改革が揚げられたことから、平成25年度に業務改善運動の制度改正を行い「駒やかカイゼン運動」として新しくスタートをすることになった。この運動は各課に配置された業務改善リーダーを中心に市民サービスの向上業務の効率化、経費の節減に繋がる1課1提案以上実施するというものとなっており、職員の資質向上、政策形成能力の向上を目的とされています。業務を遂行しながらの取り組みの提案や会議なども年間に8回から9回実施されており、各課から提案された件数の絞り込みなど迅速に行われていた。業務改善リーダーは各課の主事、係長から公募によって選んだとのこと、公募はいがいと多かった。各課から提案された提案の絞り込みも若手職員を中心に募集をした。こうして選ばれた選考委員が提案を絞り込み1位から10位までの取り組みを選び得票数によって順位づけする。最終的には市長、副市長による審査となる。提案実績 25年度67件 26年度52件 27年度45件 28年度54件となるが、提案も近年ではマンネリ化になり、現在事業の見直しも考えている。見直しについては、選考委員として若手の働きを市長等に知ってもらうために開催したが長く続かなかった。また、各課での取り組み費用はその課で賄うことや、提案して実施するまで手間がかかりすぎるなどがあげられ、普段の業務を当たり前に行うことが効果的でもあると考えているとのことであった。三田市についても提案制度を停止する期間があったが、新たに提案制度を改めて進める中で、職員のモチベーションや市への愛着や市民に対してのサービスなど、今や行政の業務はサービス業であると個人的に思うところがある。天童市のように当たり前の業務を当たり前に行うことがサービス向上になると思うが、その思いが責任と市民に寄り添った業務であって欲しいと思うそして、それぞれの職員提案が踏みつぶされないように真っ当に意見が言える職場が、それを傾聴できる上司であること。それが市民サ

ービス向上につながるのではないかと感じた視察であった。三田市の職員については、提案をどんどんして欲しいと願うところである。

天童市結婚サポーター事業について

「所見」天童市では晩婚化及び未婚化対策を図るための天童市結婚サポーター活動要綱が策定されたとのこと。策定についてはどの自治体でも課題であるが、若い世代が地元で結婚し、子育てをしてもらおうとする目的があるとしている。要綱は昨年29年4月1日に設置されその後市報で結婚サポーターを募集されている。市内13市立公民館長にサポーター募集について周知するなどし、9名の応募があり第一次として締め切る。相談を受ける側として結婚支援セミナーを受講し、サポーターとしてのノウハウを高められる。地域に公民館が設置されているため、地域間で相談者がサポーターを選べるができる。その後お見合い登録票を提出し、条件に合う人同士をサポーターが探し、写真や、様々な情報提供によりお見合いとなる。登録用紙は各公民館に配布している。現在は結婚サポーターは11人で事業を始めた当初から二人増えている。お見合い登録件数も43人から53人に増えている。結果としてまだ結婚に至った結果は報告されていない。登録の中では男性が圧倒的に多いので、バランス的に女性の登録件数を伸ばしたいとのこと。結婚サポーターについては平均年齢が64歳で男性が8人、女性が3人であった。どちらかと言うと女性が多いのかと思ったが、公民館の館長さんが男性が多いせいとか、そういった方にサポーターになっていただいているので、男性が多いのかもしれない。出会いのイベントに関しては、農協や、商工会、飲食店、旅館などが主催する婚活イベントは人気があるようだ。カップルの成立も29年度は24組となっている。三田市でも民間の婚活イベントが開催されているが、カップルの成立数がどれぐらいあるのか不明ですが、こうした民間だけに限らず市においても、若い世代が三田市にとどまるようなこうした婚活イベントの取り組みも必要ではないか。結婚サポーターについても市の要綱にそって進められている事業なので、市民にとって安心感があると思う。またシルバー世代の活躍の場も提供できる事業ではないかと思う。天童市のようにシルバー世代の豊富な経験をもとに晩婚化や未婚対策につなげる事ができるのではないかと思う。三田市の中でどれぐらいの方が未婚なのかそのようなデータを目にしたことがないので、少子化対策にもつながるため、こうした世代のデータの作成も必要ではないかと改めて感じた視察であった。